

令和元年度 第1回 市川市博物館協議会

会 議 資 料

令和元年 8月7日(水) 午後2時

市川歴史博物館 2階 講堂

市川市教育委員会 生涯学習部 考古博物館

市川市立博物館 平成30年度事業実施状況に対する外部評価

評価基準

- A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90%以上）
- B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75%程度）
- C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60%程度）
- D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50%に満たない）

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価
収集・保管及び調査研究	考古	市史編さん事業と連動した形で関東ローム層や更新世の動物化石の調査を進め見込み通りの成果があった。また、史跡管理策定事業と連動して、遺跡の全体図作成に着手したが、曾谷貝塚の報告書の作成はできなかった。	B	B	協議会にわたる意見の概要	協議会での結論を導く
	歴史	借用資料整理や寄贈図書の整理登録は年間を通して実施することができたが、市内学校郷土資料室の展示リニューアルは1校のみの実施となった。	B			
	自然	収蔵資料やスライドフィルムのデジタル化が進行しなかった。また、各種研究会についても参加が困難であった。	C			
展示	考古	常設展示室をLEDに交換したことにより、見やすい展示になった。また、ホール小展示や速報展においてテーマを決めての展示を行った。	B	B		
	歴史	企画展「本山桂川展」や「発見体験昔の暮らし」、「季節の展示」を実施し、展示の充実を図った。	B			
	自然	ホール小展示では、飼育展示や化石の展示を中心に実施した。また、展示解説については、来館者の動向に合わせて対応した。	B			
市民向けの教育普及	考古	博物館講座や講演会は、ほぼ見込み通りの結果を得ることができた。	B	B		
	歴史	博物館講座や季節の行事体験等については、受講者や参加者の増加により成果を上げることができた。	B			
	自然	自然観察会、野草名札付け、大町自然観察園環境整備等は例年実施している行事であり実績は安定している。	B			
学校関連の教育普及	考古	学校巡回展・出前授業や小学生向け体験学習は学校からの申込みも多く好評であった。	B	B		
	歴史	小学生向け体験学習については、多くの学校が満足しており好評であった。また、社会科副読本「わたしたちの市川」の制作協力を行った。	B			
	自然	出前授業や小学生向け自然体験学習等は、例年通り実施した。また、教員研修会への支援も行った。	B			
地域連携の教育普及	考古	博物館友の会主催の見学会や公民館講座を実施し好評であった。	B	B		
	歴史	博物館友の会事業への協力や公民館講座への講師派遣、また、市民団体や地元民俗行事への協力を例年通り行った。	B			
	自然	公民館や市民団体等の講座講師依頼や出張展示・展示解説及び出張体験指導の依頼に対し適切に対応した。	B			
運営	考古	「考古・歴史博物館だより」を年4回発行し、事業内容をアピールした。	B	B		
	歴史	「考古・歴史博物館だより」を年4回発行し、博物館事業を理解してもらう手立ての一つとなった。	B			
	自然	「自然博物館だより」や自然博物館行事案内を発行し、事業内容をアピールした。	B			

平成30年度 考古博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究及び整理	年間を通して実施する。	B	市史編さん事業と連動した形で、関東ローム層や更新世の動物化石の調査を進め、見込み通りの成果があった。	調査研究のスペースをうまく確保したい。
	下総国分寺報告書作成	年間を通して実施する。	C	年間を通して実施した。	同事業と連動させながら、少しずつ事業を前進させたい。
	市史編纂関係報告書作成(曾谷貝塚・下総国府)	年間を通して実施する。	C	年間を通して実施した。	報告書作成の時間を確保したい。
	平成28年度考古博物館館報(紀要)の制作及び発行	3月、900部	B	3月、900部	次年度についても、制作及び発行する。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して約1,000点を登録予定	B	年間を通して実施し、約900冊を登録した。	次年度についても、実施したい。
各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間10回以上	B	11回、37人	学芸員のスキルアップ向上に貢献している。	本事業へ学芸員が出席できる一層の環境整備。

展示事業	常設展及び北国分駅構内展示のLED交換	年間を通して実施する。	B	常設展は年間を通して実施し、北国分駅構内展示のLED交換を実施した。	部分的に修繕を要する箇所が残っている。
	ホール小展示1「縄文の海を泳いだコククジラ」	前年度～6/10	B	前年度～6/10	引き続き別のテーマで実施したい。
	ホール小展示1「指で編組む一組紐古技法『クテ打』試作展」	6/23～H31.6/9	B	6/23～H31.6/9	引き続き別のテーマで実施したい。
	ホール小展示2「市川出土の縄文土器」	4/1～9/16	B	4/1～11/30	引き続き別のテーマで実施したい。
	速報展「外環自動車道の遺跡」第8回 雷下遺跡	調査報告の刊行に合わせ展示をおこなった。	B	30/1/5～31/9/8	市内では最古級の縄文貝塚について展示をおこない、概ね好評であった。
展示解説	年間を通して実施した。	B	42回、539人	随時、来館者に行っている展示解説であり、毎回、概ね好評であった。	引き続き実施したい。

平成30年度 考古博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
考古博物館講座 （『続日本紀』、 本霊記』を読む）	『日 ともに月1回	続日本紀：10回、 664人 日本霊異記：11 回、713人	B	座学の講座という従来型の講座の形態であるが、毎月の受講生の出席率は80%前後を維持している。評価も好評を維持している。	受講生（大半が市川市民）の期待に応え、『続日本紀』『日本霊異記』講読の講座を継続し、両講座をあわせ年間の受講生が1,000人以上となることを目標としたい。
考古博物館指導員養成講座（縄文学習・火おこし・組紐）	3種 11回	9回 34人	B	ボランティアの火おこし指導員と縄文学習指導員の養成講座を実施し、修了生の受け入れをおこなった。修了者にはわかりやすかったと好評であった。	応募者数が基本的に5人以下と少ない。
ボランティア研修日・活動日（縄文学習・火おこし・組紐）	年間を通して、実施する。	17回、135人	B	縄文学習・火おこしは、4～6月まで小学校6年生を対象に活動。以後は各ボランティアとも土日やフェスティバルを中心に活動した。	秋にはイベントが多いため、出張依頼が重複して対応できないケースがあった。
考古博物館体験学習（土器、勾玉、組紐）	毎週土、日曜日	40回 786人	B	土器づくりは、博物館友の会と共催事業であり（全4回）、概ね好評であった。	土器づくりは、粘土の確保が大きな課題となっていて。
歴史カレッジ公開講演会「過去1万年間の市川の植生と人間活動」	1月12日	グリーンスタジオ 参加人数133人	B	事前の広報活動が功を奏し、多くの参加者があり、概ね好評であった。	今後とも、事前の広報活動を徹底したい。
夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	7/21～9/2 参加人数365人	B	対象とした未就学児から小学校低学年は参加できず、事業がこれまでで少なかったため、新たなサービスとなった。	対象外の世代から参加希望があった。
博物館フェスティバル	8/18、3/31	8/18、317人 3/24、819人	C	参加人数が前年より少し減った。	室外の出しものがあるイベントのため、悪天候時の対応が課題である。

教育普及事業 ① 全市民対象

平成30年度 考古博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
学校巡回展、出前授業	申し込みを受けて実施する。	学校巡回展：7校 (行徳・信篤・妙典・鬼高・鶴指・若宮・北方小) 出前授業：7校・見学5校	B	学校巡回展は公共施設巡回展と一連の事業としておこなった。テーマが「下総国分寺と七重塔」であったので、国分寺に近い小中学校を対象にした。出前授業は、縄文体験学習。本物の土器や石器に触れることができるため、好評であった。	学校巡回展は開催する学校の担当教員の関心により、対応に差があった。
小学生向け体験学習指導	申し込みを受けて実施する。	20校 1897人	A	縄文時代の生活の様子を見学と体験で学ぶ毎年恒例の縄文体験学習。大変好評であった。	30年から学校からの申し込み方法をFAX対応に変えて、重複する学校がなくなつたため次年度も、学校からの申込方法をFAX対応で実施する。
中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	7校 21人	B	学芸員の専門的な仕事を実際に体験していただいた。博物館での職場体験を希望して来た生徒もおもひ、概ね好評であった。	学校からの申し込みが重複することがあった。
高校生ボランティア活動支援	申し込みを受けて実施する。	のべ20人	B	夏休み期間中の組紐・勾玉づくりに高校生が参加した。	集中して取り組めるように参加する日数や時間に調整を要する。
小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	申し込みを受けて実施した。	B	随時、対応しているが、概ね満足していた。	事前に連絡がないこともあり、学芸員が不在であることもあった。
大学生学芸員課程館務実習指導	5～6月に実施する。	5大学、5人	B	ホールの小展示を中心に実習をおこない、通年で展示をおこなう。展示ができ、実習を終了した。	最近参加の学生が3～5人であり、パソコンの操作に長けた学生の有無で、実習の進捗に差が出るので、その状況への対応が課題。
教員対象の博物館利用研修	申し込みを受けて実施する。	1回、2人	B	学校向け事業の概要説明、常設展の解説、学校向け体験学習の実体験、国史跡・堀之内貝塚の見学をセットにした研修。全体にわかりやすいと好評であった。	学校教育と博物館の連携強化に繋がるように、研修後のフォローも心掛けておきたい。
教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	0回、0人			要請があれば、対応していく。
社会科副読本『わたしたちの市川』制作協力	年間を通して実施する。	今年度は特に要請がなかった。			要請があれば、対応していく。

平成30年度 考古博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題	
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	B	友の会からの要請に基づき、見学会講師などで協力した。	次年度についても、要請があれば協力していく。	
	友の会見学会「東京湾岸の古墳を訪ねる」	計画外	B	友の会主催のバス見学会で、講師都合により、事前勉強会、バス見学会の講師への要請があり、実施。好評であった。	共催事業での見学会よりも、企画などの手間が省ける分、友の会見学会への講師での参加の方が負担は少ない。	
	公民館講座	申し込みを受けて実施する。	B	5回、144人	博物館学芸員への講演依頼（とくに縄文時代、奈良・平安時代）は毎年一定の要請があり、好評である。	次年度以降も博物館活動認知のため、要請があれば開催したい。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	B	7回 882人	地域まつりへに参加は、土器の展示や地域の話題に根ざした講演をおこない、博物館に来館されなれない市民の皆さんとも触れ合うことができ、貴重な機会と認識している。	小学校のPTAなどが主催するイベントは、秋に集中するため、当館の事業との日程調整が難しく今後の課題である。
	観光関係機関、部署との連携	年間を通して実施する。	B	年間を通して実施した。他自治体主催講演会3回	他自治体の講演は、君津市・我孫子市・葛飾区の3ヶ所でおこない、好評であった。	次年度についても、連携を図っていきたい。
運営	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回/年	B	考古博物館の事業内容をアピールした。	制作及び発行を継続したい。	
	平成31年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	B	予定通り発行した。	今後も継続して発行したい。	
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	B	考古博物館の施設維持に必要な予算を確保し、維持管理に努めた。	予算が厳しい状況ではあるが、施設維持に必要な経費を要求する。	

平成30年度 歴史博物館 事業実施状況評価

評 価 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題	
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究、整理及び維持管理	年間を通して実施する。	B	借用資料の整理(目録作成)を行い、所蔵者に提供したり、改めて収蔵室の整理に着手した。	収蔵資料の資料整理業務及び調査に要する時間が不足している。	
	市内学校所蔵資料調査	事前に調整して実施する。	C	年間を通して1校実施した。	1校の郷土学習室の展示リニューアルを行った。	展示リニューアルの周知を積極的に行う。
	資料及び古写真のデータベース化	年間を通して実施する。	C	ほとんど実施できなかった。	借用資料の古文書をデジタル化したのみで終わった。	資料整理に要する時間が不足している。
	平成28年度歴史博物館館報(紀要)の制作及び発行	3月、800部	B	3月に800部を発行した。	博物館活動の年間記録及び調査研究成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	事業内容が多岐にわたるので、わかりやすい記述をする。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	B	年間を通して実施した。	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。423冊	本の保管場所が不足している。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間を通して実施する。	B	年間を通して実施した。	日本民俗学会での研究報告、平塚市立博物館他6館での見学や体験事業への参加で、学芸業務の研鑽を積むことができた。	研修会や学会への参加や、他の博物館等の見学会や体験学習等の機会をさらに増やし、当館の展示や体験学習等に活用する。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	B	年間を通して実施した。	キャプションの更新や展示パネルの入れ替え等を実施した。	引き続き、キャプションを替えたり展示替えなどを行う。
	企画展「本山桂川展」	6/2~9/6開催	A	入館者数4,968人	市川市にゆかりのある民俗学者「本山桂川」の著作や手書き原稿等を紹介し、その足跡を紹介したこと、市内外のみならず、県外からの見学者もあり好評を得た。	令和2年度は、当館が企画展を開催する予定なので、それに向けた準備を進める。
	企画展「発見体験昔の暮らし」	11~2月	A	11/3~2/17 入館者6,572人	小学校の要望に合わせて展示内容を変更しており、学習指導要領改訂の準備として、地域の土地利用の姿選の地図を示した。なお、今年度も市内の半数以上の小学校が来館した。	令和2年の学習指導要領の改訂に合わせて、学習しやすい展示を行う。
	企画展「季節の展示」	時期に合わせて実施する。	B	春1回、冬1回、新春1回	民俗行事の辻切りや端午の節句などをテーマにした季節にあった展示品や関連する新着資料などの展示を行った。	新着資料や旧蔵資料を織り交せて、市内の歴史と民俗に関心を持ってもらえるよう心がけた。
	収蔵資料展	9月~	B	9/15~12/27	大学生の博物館実習の一環で、常設展示室の一部を利用して、館が所蔵する国府台の歴史に関する資料を展示した。	実習生に展示構成を考えてもらい、一般の来館者にわかりやすい展示を目指す。
	展示解説	年間を通して、また企画展開催中実施	B	148回、491人	展示解説の希望者に、解説時間などの希望をうかがいながら、随時解説を行った。	事前予約があれば、できるだけ対応をする。また、子供用の解説シートを作成し活用する。

平成30年度 歴史博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ① 全市民対象	歴史博物館講座（近代史、民俗学）	近代10回 民俗4回	B	受講者数は減少したが、各講座とも概ね好評を得ることができた。	中世の古文書講座を実施予定。近世史講座については実施の予定はない。
	体験学習指導員研修	10回	B	市内地域の見学や研修を行った。	見学会は好評を得ているため、定期的に実施したい。
	昔の遊び体験（紙芝居、紋切り遊び、火打ち石等）	毎週土・日曜日	B	幅広い年齢層の方に体験してもらえた。	遊びの内容を改め、定番のものから新規のものまで幅広く実施したい。
	季節の行事体験（七夕飾り、正月飾り作り）	7月、12月	A	イベントも周知されてきており、受講者の満足度も高い。	竹や藁などの材料を確保について、改善を行いたい。
	昔の暮らしや地域に関する各種体験	時期に合わせて実施する。	B	各種体験学習の希望者は微増した。また、新たに和綴じ本作りを実施した。	実施時期について、改善をしていきたい。
歴史カレッジ及び講演会	1回	B	今年度の講座担当は、考古博物館で、当館は開校式とガイダンスのある初回のみ担当した。	今回も参加者数は定員に達しており、講座の内容の充実を図っていきたい。	
博物館 フェスティバル	8/18、3/31	C	参加人数が前年より少し減った。	新たな事業内容について、検討する必要がある。	
教育普及事業 ② 学校連携	学校巡回展、教材用資料貸出、出前授業	出前授業8校、765人	B	出張授業では小学校の要望に合わせて、実現可能な体験や授業を行った。	見るだけでなく、さわって体験のできる学習の充実をはかる。
	小学生向け体験学習指導（昔のくらし体験）	19校 1,763人	A	学習単元の内容に合わせて展示を行っていることから、多くの小学校から満足との回答を得ている。	学習指導要領の改訂に伴って、展示内容の修正を行う。
	中学生職場体験指導	7校26人	B	中学校からの依頼により、主に博物館資料の整理や清掃を行った。	普段、来館者としては決して多くはない中学生に、博物館を知ってもらう機会としたい。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みに応じて実施した。	B	学区の歴史や年中行事に関する学習等に対応した。	周知に努めて、また具体的なテーマなどを示していきたい。
	大学生学芸員課程 館務実習指導	8/31、9/7～14	B	大学の依頼により、学芸員資格取得のための実習を実施した。	資料整理や展示作業の他に、来館者に直接対応する展示説明などの実習を行う。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	B	小学校の依頼により、教員の外部施設への研修の一環として、学芸員業務の補助を行った。	小学校の教員が、博物館の利用について理解できるように機会としたい。
	社会科副読本『わたしたちの市川』制作協力	年間を通して実施する。	B	市のようすのうつりかわりについて、博物館資料を活用した学習方法を提案した。	学習指導要領の変更にあわせ、より充実した学校との連携を図っていく必要がある。

平成30年度 歴史博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題	
教育普及事業	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	B	友の会事業への講師派遣、広報宣伝及び場所の提供、資料調査協力などを行った。	市内の歴史・民俗資料、拓本等の調査に協力をす。	
	友の会のバス見学会「八王子方面」	2月	B	2/24、55人	学芸員が案内役として参加した。	学芸員の負担にならない範囲で協力をす。
	公民館講座（公民館主催講座への講師派遣）	申し込みを受けて実施する。	B	7回、143人	公民館の設定するテーマや地域に関する歴史講座を実施した。	公民館側と内容の検討をしながら講座を行う。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	B	3回、173人	市内の小学校（3校）を会場とした地域祭りに参加した（火おこし体験、ワラリース作り）。	今後も、出来るだけ引き受けたい。
	地元民俗行事協力	1月	B	1/21、堀之内自治会	堀之内地域の、辻きり行事を後世に伝えるために、毎年製作される辻切りの大蛇を展示し、関連の企画展を行った。	辻切りだけでなく、市内の他の地域の民俗行事に参加したり、技術や伝承などの調査を継続して行ないたい。
運営	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回/年	B	4回/年	予定通り発行した。	配布枚数や配布場所について見直していく必要がある。
	平成31年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	B	3月、10,000部	予定通り発行した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	B	年間を通して実施した。	歴史博物館の施設維持に必要な予算を確保し、維持管理に努めた。	予算が厳しい状況ではあるが、施設維持に必要な経費を要求する。

平成30年度 自然博物館 事業実施状況評価

評 価 基準
 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 C:改善の余地あり(60%程度)
 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収蔵資料の調査及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業にかけた時間数は多くなかった。	C	データベース化が進行しなかった。収蔵資料の整理についてはボランティアの方の協力を得て、昆虫標本について整理が進んだ。	データベース化についても専門知識を持つボランティアの方の協力を得て、前に進めていきたい。
トビハゼ生息状況調査(トビハゼ保全施設連絡会)	年間を通して実施する。	年間を通して予定した内容を実施した。	B	「トビハゼ保全施設連絡会」の運営と、巢穴調査、稚魚調査、観察会を行うことができ	「トビハゼ保全施設連絡会」として、東京湾のトビハゼに関する調査、啓発などを進めていきたい。
資料の電子化	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業にかけた時間数は多くなかった。	C	スライドフィルムのデジタル化を進めたが、あまりはかどらなかった。	フィルムの劣化が進行する前に、順次行っていきたい。
博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業にかけた時間数は多くなかった。	B	図書資料については、ボランティアの方の協力を得て、書庫の整理が進んだ。	図書資料のデータベース化を進めてゆきたい。
各種研究会への参加、各地博物館の見学	適宜実施する。	行わなかった。	C	他の業務との兼ね合いで、行えなかった。	現状では後回しにせざるを得ないが、機会を見つけて行きたい。

常設展	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	傷んだ昆虫標本について、専門知識を持つボランティアの方々に交換をしてもらった。	つねに良好な状態を保ち、来館者の満足度(好意的な発言、滞在時間の長さ、アンケートの多さなど)が上がるように心掛けたい。
ホール展示	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	飼育展示や化石の展示を中心に好評を得た。	特に飼育展示では、今後も毎日状態を確認し、常に良好な状態を維持したい。
展示解説	年間を通して、また開催期間中実施	違う形で実施した。	A	当館の場合、ツアー形式の展示解説はなじまない。来館者の動向に合わせて、臨機応変に対応している。	質問も含め、学芸員との会話を望むお客さんは多いので、今後も相手に合わせて適切に対応したい。

平成30年度 自然博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ①全市民対象	自然観察会、散策会 (親子自然観察会、 季節を感じる散策会、 長田谷津散策会等)	22回 22回実施した。 参加568人	B	例年行っている行事であり、実績は安定している。	30年度と同様に進めたい。
	野草名札付け	9回 7回実施した。 参加56人 (2回雨天中止)	B	例年行っている行事であり、実績は安定している。	30年度と同様に進めたい。
	大町自然観察園環境整備	10回 8回実施した。 参加59人 (2回雨天中止)	B	例年行っている行事であり、実績は安定している。	30年度と同様に進めたい。

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ②学校連携	出前授業	申し込みを受けて実施する。 15回実施した。	B	中山小学校や塩焼幼稚園、越中島小学校(都内)、高校生部活動等継続して依頼があった。	依頼にはできる限り対応したい。
	小学生等自然体験学習指導(大町公園)	申し込みを受けて実施する。 38回実施した。	B	少年自然の家に宿泊して実施するグリーンスクールの中で行うものが多かった。	依頼にはできる限り対応したい。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。 申込がなかった	B	申込があれば対応する。	依頼にはできる限り対応したい。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。 実施した。	B	夏休みの標本作りの支援(名前しらべ)を適宜行った。	依頼にはできる限り対応したい。
	大学生学芸員課程館務実習指導	8月 1回実施した。	B	予定したプログラムを行うことができた。	依頼にはできる限り対応したい。
	教員研修会講師派遣	申し込みを受けて実施する。 1回実施した。	B	千葉県教育研究会市川支会幼年教育部会の研修を行った。	依頼にはできる限り対応したい。
	教員対象アフォー アップ研修	申し込みを受けて実施する。 申込がなかった	B	申込があれば対応する。	依頼にはできる限り対応したい。

平成30年度 自然博物館 事業実施状況評価

事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題	
教育普及事業 ③地域連携	(公民館、市民団体等) 講座講師派遣	年間を通して実施する。	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
	大町ワリエーションフェスティバル	11月、1月	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
	出張展示・展示解説及び出張体験指導(小・中学校祭り、少年自然の家ファミリー等)	申し込みを受けて実施する。	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
	観光関係機関、部署との連携	年間を通して実施する。	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
運営	自然博物館だよりの制作及び発行	隔月発行	実施した。	B	予定通り発行した。	予定通り発行したい。
	平成31年度自然博物館行事案内の発行	3月、1500部	実施した。	B	予定通り発行した。	予定通り発行したい。
	平成29年度自然博物館年報の制作及び発行	3月、500部	実施した。	B	予定通り発行した。	予定通り発行したい。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	実施した。	B	予定通り実施した。	予定通り実施したい。

平成 31 年度 考古博物館企画展事業概要

タイトル 企画展『大地からのメッセージ-外かん自動車道の発掘成果-』

開催期間 平成 31 年 7 月 6 日 (土) ~ 9 月 8 日 (日)

会場 市川歴史博物館 2 階・特別展示室 (展示面積 160 m²)
〒272-0837 千葉県市川市堀之内 2-26-1 TEL 047 (373) 6351

趣旨 東京外かく環状道路 (外かん自動車道) の建設工事に先行しておこなわれた発掘調査の出土品を一堂に集めて展示します。特に、日本最古の丸木舟で話題になった雷下遺跡をはじめ、国史跡の堀之内貝塚に隣接する道免き谷津遺跡、国史跡となった北下遺跡などの貴重な出土品 610 点を通して、市川の歴史をわかりやすく紹介します。

展示資料

遺 跡 名	おもな展示資料
稲荷作遺跡	旧石器・縄文土器・須恵器・小玉
小塚山遺跡	旧石器・弥生土器
道免き谷津遺跡	櫛状木製品・漆器・木製耳飾り・縄文土器・土偶・土版・石器・ 製塩土器・弥生土器・木製農具ほか
雷下遺跡	<u>旧石器・丸木舟・貝層断面剥ぎ取り・カゴ状編組製品・棒状木製品・骨角器・動物遺物・人骨・縄文土器・石器ほか</u>
北下遺跡	瓦窯関係遺物・祭祀関係遺物・鋳型破片・梵鐘破片・縄文土器・ 製塩土器ほか
後通遺跡	漆塗り髪飾り・瓦・墨書土器・近世土製品ほか
平田遺跡	埴輪破片

※二重下線の遺物は、平成 30 年 8 月時点で千葉県教育振興財団保管。

印刷物 ; ①ポスター B2判 1,000 枚
②チラシ A4判 8,000 枚
②図録 A4判 1,000 部

関連行事 1. 講演会 7 月 13 日 (土) 13:30~16:30 『市川から発信する新たな縄文文化』
講師 國學院大學小林達雄名誉教授・千葉県教育振興財団・千葉県教育庁文化財課職員
場所 全日警ホール
2. ギャラリートーク
7 月 7 日・7 月 21 日・8 月 4 日・8 月 18 日・9 月 1 日の計 5 回

問い合わせ 市立市川考古博物館 (担当学芸員 領塚正浩・山路直充)
〒272-0837 市川市堀之内 2-26-1 TEL 047 (373) 2202